令和7年第1回 多気町議会定例会会議録（一般質問）

開 議 令和7年3月5日 午前9時 （3名）

順番	質 問 者	通告方式	質 問 内 容
1	前川 勝	一問一答	①増え続ける獣対応を問う （町長、担当課長） ②有機フッ素化合物（PFAS）の心配は無いか問う （町長、担当課長） ③下水道管路に起因する道路陥没は大丈夫か問う （町長、担当課長）
2	坂井 信久	一問一答	①本町の水道水における「PFOS」「PFOA」及び 関連課題について（町長、担当課長） ②香肌奥伊勢広域連合の名称変更及び 改革は出来ないのか（町長、担当課長）
3	松木 豊年	一問一答	①学校給食の無償化について （町長、教育長、担当課長） ②地産地消・オーガニック給食について （町長、教育長、担当課長） ③多気町地球温暖化対策実行計画の 進捗状況について（町長、担当課長）

(9 番 前川 勝 議員)

○議長 (志村 和浩) 1 番目の質問者、前川議員の質問に入ります。

9 番 前川議員。

○9 番 (前川 勝) 改めましておはようございます。今回、私は一問一答方式で3点の質問をさせていただきたいと思います。1点目、増え続ける獣対応を問う、ということと2点目、有機フッ素化合物 P F A S の心配はないのかということ。3点目といたしまして、下水道管路に起因する道路陥没は大丈夫かということで3点の質問をさせていただきます。

それでは1点目獣対策ということで獣害対策なんですけども、入らせていただきます。毎年の猟期(原則11月15日から翌年2月15日、ニホンジカとイノシシは11月1日から翌年3月15日までと延長されております。)及び有害駆除対策でたくさんの捕獲駆除が行われておりますが、サルを含め一向に減ったなあと感じることがございません。ただイノシシについては、一時期、豚コレラで減ったようにも感じたわけですが、最近元に戻った感がございます。

獣害対策としてこれまで何回か一般質問をさせてきてもらっておりますが、令和4年9月議会で行った中で、いま一度確認を含め質問をさせていただきたいと思います。

まず1点目。サルについて、鳥獣被害防止計画の中で捕獲計画を50頭と掲げられておりますが、現実には令和1年から5年にかけて11頭、10頭8、9、7頭と、なかなか計画頭数には届かない状況がございます。

町民の皆さんにおかれては、丹精込めた作物を食い荒らされることが、販売の減少だったり、家庭菜園では失望感だったりと言いきれぬ状況があります。町内のサルの現況状況をどのように把握し取り組まれているのか、まずお伺いいたします。

○議長 (志村 和浩) 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） ただいまの前川議員の御質問にお答えいたします。まず、サルの状況につきましては、現在多気町内には4つの群れが生息していると考えております。

まず、勢和A群が丹生から長谷、牧、前村といった地域、勢和B群は朝柄、片野、勢和C群は波多瀬、朝柄。大台K群が色太、土屋、車川といった地域に生息していると思われま

す。サルの被害につきましては、年々増えてきている状況です。銃や罠による捕獲が難しいことから、大量捕獲檻による捕獲を行っているところです。

群れの状況を把握するためには、捕獲檻で捕獲したサルに発信機をつけて、その発信をもとに群れの状況を確認するという方法をとっております。

3年度には3頭、4年度には1頭、5年度では2頭に取付けて放しております。

発信される電波を受信することで、群れの位置を把握することができます。その情報はサルどこネットにより発信をされております。

6年度より運用開始した大量捕獲檻の色太区においての地獄檻なんですけれども、大量捕獲檻については、獣害対策の地域研修会を実施し、また町としましても、地獄檻と呼ばれる檻の形式が初めてということもありまして、県普及センターのほうからも指導助言を頂いております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） 現在、4つの群が多気町に生息している。これまでは3つというふうに伺ったんですけども、1群増えた。

そうするとその4群で頭数はいかほど今いると考えられておりますか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） 1つの群れについて、40から50頭のサルが集団で生

活していると想定しております。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） この40から50というのは、結構シビアな数字なのかなっていうふうに思わないですけども、今回高崎山のほうへ電話いたしましたところ、前から、40から50というお話だったので、浅野所長さんというんですけども、お話ししたところ、「多いんですね」と、「40から50もある、大きな大群ですね」というようなお話もされました。現実的に、どうもやっぱり、10、20っていうところがあるように、お話はされておりました。だけど、今の数からいくと、仮に50とすると200頭がいるということで、これはもう本当にやはり、農家の人にとったらもうこれは大変なことだなと。

今朝私も、佐奈駅のところで2頭道で、たまたま今日一般質問する日に佐奈駅のところで2頭道におりました。もう多分、数頭そこらにおったんかなあとは思いますが、やはりもう毎回のことなんですけども、捕るしかしようがないという、でも捕れないっていう答弁だったと思うんですけども、そこら辺、今後、まだまだ増えていく。基本、年1頭のように、お伺いすると。それでやっぱり年1頭なんだけど、食べるものがあると、やはり毎年のように、1頭ずつ増えていく。だからもう、無尽蔵にどんどんどんどん1頭ずつ増えていくと、メスのサルですね。妊娠期間が5か月だということもおっしゃってました。それで年1頭ずつ増える。食べるものが、町中里中へおりにきていいもの、栄養のあるものを食べているので毎年のように1頭ずつ増えていくと。猫や犬のように何頭も産むわけではない、1頭ずつ増えていくと。でも確実に増えていくと。

それから温暖化によるあったかき寒さとかがないから余計なこと、育ちやすい、子供が死ぬことなく、そのまま大きくなってしまおうという状況があるようです。

今後、この今の状況を踏まえてですね、全体的な対策、様々なこれからお話

もさせていただきますけども、今後まだまだ続けて、様々な方策を続けていただきたいと思いますというふうに思うところです。

今のおっしゃったそんな中で全体的な部分ですけども、多気町鳥獣被害防止計画、これが新たに作成策定されるのかと思うんですけども、新たな取組についてございませんか、お伺いたします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） 先ほどおっしゃられましたサルの出産についてもですね、うちのほうでちょっと調べましたところ、えさがないときには2、3年に1回、1頭の子供を産むと言われております。

またその生まれた子供についても、30 から 50%は死亡するという、統計上出ておるんですけども、そうすると、年間の増加率は0.99 となって、ほぼ頭数としては増えてこない。

ただし先ほど議員おっしゃられたように、えさが豊富にあるときには、4歳から5歳になったメスのサルは毎年1回1頭を出産する。生まれた子供の80%は生き残ると言われてます。年間の増加率は1.14 となりまして、個体数は増加していく一方でございます。20頭の群れが10年間で70頭に増加すると想定されております。そういった中でサルは増えてくる。それはえさが豊富やからということでございますので、まずサルが豊富なえさを簡単にとれるような状況をなくしていくというのが1番大切かと考えております。

今現在町内で取り組まれておる丹生地区でサルの追い払いをされております。

また車川地区でも、それに似た取組をされて追い払いをされておるというふうに聞いております。

サルが簡単におりてきて、えさがとれるという状況を改善することによって、少しでも、サルの頭数が増えることを防ぐことは可能かと考えております。

また、今年令和6年度から運用開始しました地獄檻につきましても、今現在、

あまり成果を上げておらない状況なんですけれども、それは群がこの付近に来ることがなくなってしまっておる状況が夏以降続いておりまして、最初設置して数か月の間は、かなり周辺にサルがおったようなんですけれども、それがなくなっておる。ではその群れがどこへ行ったかというのを確認するためには、発信機をつけたサルを数多く放していかないとなかなか群の把握ができない。先ほど申しました 40 から 50 頭というのも、一般的にサルが群れをなすときに、それぐらいであろうということで、例えば1つの群れが道路を横断をしたときに、1頭ずつ数えるとかっていうことがなければなかなか群れの数を把握するというのは難しい。先ほどおっしゃられたように1頭2頭見かけて周りに何頭かおるんやろなというのを全て把握することは難しいので、その頭数を減らすためにも、少しでも、サルを捕獲して発信機をつけて群れの状況を把握する。群の状況の把握によって、追い払いも効率的に行われるんじゃないかなと考えております。

以上です。

(前川議員より「防止計画どうです。」と声あり)

○議長(志村 和浩) 井田農林課長、鳥獣被害防止計画の進展については、答弁いかがですか。

○農林課長(井田 保) 現在挙げております防止計画につきましては、来年度見直しをかける予定でございますので、その中で取組をさせていただきたいと思っております。

○議長(志村 和浩) 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番(前川 勝) まだ今、考えているところ作っているところで新たな計画こんなことをやるっていうことがまだないということでしたけども、毎年これは防止計画、町長も含まれ、皆さん農協の方とか様々なかたがいらっしゃっていろんな意見、猟友会からもこられていろんな意見を出されると思うんですけども、ぜひですね、このやらないかいかんからこういう計画書をつくるんだっ

というんじゃないくて、実質的な町民の方が困っている部分のことを確実に解決できる方法をですね、ぜひ課として、全力で取り組んで頂きたいなというふうに思います。

2番へ入ります。続きまして大量捕獲機で、昨年1機増えて、現在、波多瀬、神坂、色太、これ色太は今回増機分、昨年ですね、増機分であります。3地区に備えられ活躍すると期待しているところです。

しかし、結果が出ていないよう、今も発言ありましたが、なぜ入らないのか、どのような問題意識を持ち、取組を実施しているのか、見解をお伺いいたします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） はい。大量捕獲檻につきましては、県内でも設置数が今増えてきておるところでございます。三重県の農林水産部におきましても、設置と運用について研修等で普及推進を実施しておるところでございます。サルの群れを把握しなければならず、発信機の装着されたサルが絶えずその群れにおるということが必須条件でございますので、発信機の電池切れ等もあり、その更新も必須となっております。そのためにも捕獲檻での捕獲が重要となるかと考えております。

群れの動きも季節によって変わることがありまして、何か月も姿が確認できないこともございますし、檻の移動はそんなに簡単にできないということも、検討すべき課題ではないかなあと考えております。

またこの大量捕獲檻を設置することによって、周辺のサルを集めてしまうということがありますので、地域の御協力が必要となってきまして、例えば民家に近いところであるとか、いうところには設置がなかなかできないということもございますので、いろんな地域の方とお話をしながら、設置位置については考えてまいりたいと思います。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） この昨年度取付けていただきました大型捕獲機は、その前私が提案もさせていただいて、南勢町でしたかね、こういうのがありますよってということで、据付けていただいた部分があつてですね、何か、1頭も今のところ捕っていないということを聞いております。

何か提案せつかくしたのに捕れない、残念でかなんわけですけども、そういう中で色太に据えられておるわけですよ、1番新しいのが。それで、その地区の方ともお話をさせていただいてきましたら、取付けた時は結構たくさんいたんだと。なんだけど、それで横の蓋も開けて入っていたと。ちょっと映させていただきます。これが新しく取りついた捕獲機で私最近本当に行ったんですけど、えさも与えられて、きちっと管理はしているんですけども、今お話し申し上げました今サルがもう全然ここにいない、いない状況なので、もう入りようがない。いないものを捕れるわけがないんであつて、やはり、今もおっしゃったけどこの移動は大変なんだということなんですけども、このことについても高崎山の所長さんともお話ししましたら、やはり、いないところでは絶対取れませんというお話がありました。そういう意味においては、大変なんだろうけども、やはり、追払い隊が追いついて、それからいるところ、サルのいるところへ据えないとなかなか難しいだろうなということをお話しされてました。

それから、この檻は上から入るだけで、何も横から入って自動的にというかスイッチで蓋を閉めるという檻ではないので、なかなかその辺がやはり横が開いてるときはサルも入っていたわけなので、檻のやはりちょっと一歩考えて改良しなきゃやっぱり駄目なんではないかなと。上からも入るようにしておいて、横からも入って落とせる状態のもの、入り口の改良、これをしないとやっぱりせつかくあつても、有効に働かれないのではないかなっていうふうに思うので、この改良について、課長いかがですか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） はい。現在、大量捕獲檻は町内で3つ運用されておるんですけども、波多瀬と神坂に置いておる檻については、カメラで監視をしております、サルが入った情報が来たときに携帯のほうから手動で門を締めてサルを捕るという形式でございます。

今回導入しました地獄檻というのは、そもそもそういう装置ではなくってサルが自由に入出りできる檻をまず設置する。それでサルがだんだん慣れてきて、群1群が入っても、えさが食べれる、ゆっくり食べれる状況ができたときに、横の扉を閉じる。入るためには木の棒とかで入るための装置は作ってあげるんですけども、みんなが入っても、今度出ようとしたときには、天井しか出れなくて、全頭を捕獲できるという装置でございます。

これは大台町でも運用されておるんですけども、捕れるところと捕れないところでかなり差が出てきておるというのも事実でございます。

設置場所についてもですね、先ほど申しましたように、いろんところで、「うちサルようけおるで置いてくれ」という話はあるんですけども、いざ設置という話になってくると、地元の中でもそんなサルが集まるようなものは出てきておるのが現状でございます。

この地獄檻についてはそういう、先ほど申したような形式でございますので、扉は閉めた状態で、中にえさが食べれるというのをサルに慣れさせるということから始まるものでございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） はい。それを踏まえた上でですね、やはりそれでは捕えにくいというか、今のところ入ってないから余計のこと駄目なんだろうなと思うんですけども、今後やはり、今の従前の今やっている、こちらからスマホなり、パソコンから蓋を落とせるものを取付けておくことによって上からも入る、そういう横からも入って落とせるというようなことも踏まえたやはり方

向性も考えていかればどうかというふうな、今後の課題としてですね、これは是非、もう地獄檻で、それで入るんだったらそれはそれでいいんですけども、やはりそういうことも考えなきゃいかん、やっぱり設置場所だったりですね、その辺がやはり1番今の大台ですか、捕れるところと捕れないところがあるっていうのはやっぱり、設置場所が非常に大事なんではないかなと。

それから高崎山の所長さんおっしゃるにはやはり冬が1番いいと。あとはそんなに入らないと。冬は食べ物がないから、そういう檻に、寄りつくということで夏場から春秋までは非常に食べ物があるので、なかなか難しいでしょうというお話をされておりました。

確かにおっしゃるように弊害もあって、寄せるので、農作物を食い荒らすの一時期、団体捕るまでは、食い荒らすという、確かに課長おっしゃるように、農家の人にとったらもう大変な状況も予想もされるわけですけども、一時期本当に我慢しないと、捕ることはできませんっていうようなこともおっしゃってました。

今後この大量捕獲機ですね、せっかくもう固定的に波多瀬、神坂、色太ですね、結構もう波多瀬にも神坂も結構長年になってきたんではないかなと。実績として、捕っていればいいけど、なかなか捕れない。それからもう、蓋をするときは、見ているサルはやはり他へえさやって連れていっておかないと駄目だっておっしゃってました。見ているともうその檻へは絶対入らないうようなことですね。これはもう警戒心が強いので、例えば自分の母親だったり子供だったりそこへ捕まえられると、それを見ているともうサルは絶対その檻へは寄りつかんっていうふうにもおっしゃってました。だから、閉めるときは近くにおる、見ているサルはやっぱりいない状態にしないと駄目だなあというふうなことも伺いました。

いろんなところで、農林課としても様々な研究もされているでしょうけども、ぜひですね、大型捕獲器による大量、今までに1度だけ、以前いらっしやった中野議員がですね、40数頭でしたか、大量捕獲のあったわけですけどもああい

うことができますね、やはり大量捕獲をしないと、群が今のおっしやった4つの群、1つ増えてるわけなので、これはもう町にとったら大変な状況だなというふうに思いますので、大量捕獲機のうまく運用、使ってもらって、ぜひ、農家の人がかよったって思えるようなことを進めていっていただきたいなというふうに思います。

次に入ります。3番といたしまして前日も話しております大量捕獲機による捕獲について、通常の有害捕獲のように報奨金をつけてはどうでしょうかということでも以前も申し上げました。

捕獲により1つの区だけが助かるのではなく、地域への恩恵をもたらす、設置した区には、御苦勞をおかけしているの、公平性を保つ意味においても必要だと考えますが見解をお伺いいたします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） 町が主体となって行う捕獲、いわゆる大量捕獲檻と違ってものとかですね、有害駆除を自治体が処理をする捕獲については報奨をつけない方針でございます。

地元としましては、御協力をお願いするところではございますけれども、捕獲により群れが減少すれば、地域としてのメリットはあると考えております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） はい。なので、その地域の方には御迷惑を、変な話そこへ寄ってくるわけですね。それから区でえさを入れたりとかのお手伝いもしていただいとると。なのでそういう、うまく捕えることができたなら、報奨金として、猟友会の方はパトロールの方は報酬をもらってされている部分があるので、それは、そちらの方にはどうなのかっていう部分もあるんですけども、何%かをですね、区の方のやっていたらいてるお世話かけとる部分の戻し、お手伝

いをしていただく部分のことを報奨金として全額、決めにくいんでしょうけども、全額なりを全部ですね、出すことをしますよってということで、より協力も得やすいのではないかなというふうに思いますが、もう一度お願いします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） 議員おっしゃられるように報奨金によって、地域の協力が得られるかというところではございますが、この報奨金の意味というのは、あくまでもその被害を出しておる獣を捕っていただいたことに対して、猟友会の方ですとか、そういった個人で狩猟される方に対して、報償をさせていただくというものでございまして、地域の方にこのお金を出すから協力してくれというのは、何かちょっと違うような気がいたします。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） おっしゃるとおりです。そういうことに関わっている方に出すのが報奨金ではあると、それは私も理解するし分かるところです。

ただ、何遍も言いますけども、区にも様々な御迷惑をかけた部分があるから、それはやはり何らかの、捕ってもらえば区の方たちは助かる。隣の区もこっちの区もいろんなところが助かる。だけどその区の方たちが1番苦勞される、もし寄せたらね、寄せたら苦勞もされるわけなので、そういう何らかの手当て、報奨って言うからおかしいんかわかんないけど何か手当はやはり、御苦勞かけている手当はやっぱり考えていただければ、前も言いました、えさ代にしても何にしても、無料な部分もあるんですけども、その辺の手間をおかけしているという報奨ではなく、報奨金ではなく手間をおかけしている、お願いしていることに対するものをぜひですね、持っていたいてる区に対して何らかの手当てをしていただけると、張り合いもあるんじゃないかなと思います。

もう一度お願いします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） はい。先ほど申しましたようにあくまで報奨金というのは、そういった形でお支払いをさしていただいとるというのは変わらないんではございますけれども、確かに地域の方に御協力を頂くために、何らかの方法をとというような御意見やっただと思います。

ただ、その地域によっては、つくることに賛同していただける区域もありますし、いやいやこの地域では困るよといういろんな御意見がある中で、そういう報奨金によってですね、意見をまとめていくという方法はどうかと考えております。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） はい、課長、報償金からちょっと外してもらって何かのお礼というか、そういうものでぜひですね、今後そんなことも考えていただけるとありがたいなど。これもう願望であります。

ここを言っただけで、なかなか、課長報奨金にどうもこだわられるけどお世話かけるところへ区へ何らかのお礼ないしそんなものもあればなあ。

この件に対して町長どうですか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

久保町長。

○町長（久保 行男） はい。今担当課長申しあげました内容で取り組んでいくということで御理解頂きたいと思います。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） 町長、報奨金ではなくて、せつかく置かせていただいている区に対してお礼、お礼ですね。気持ちですね、を何か、出していただけるとその区の方たちも、張り合いもあるし、喜んで頂けるのかなと思いますけど、町

長もう一度お願いします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

久保町長。

○町長（久保 行男） ある区ではいいというところもあれば、ある区ではそんなことやってもうたら困るという意見もあるので、その辺の調整は難しいかなと。そういう答えて、課長も答えました。私も同じ思いであります。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） そうですね。課長と町長が違う話をしてはいかん、どっちもこっちもあかんやろけど、ぜひですね今後、そういうお世話をかけてる区はやっぱり大変なのはもう区長さんもおっしゃってます。だからその辺はやっぱり、耳を傾けていただいて、柔軟に対応していただければなというふうに考えます。もうこれ、どこまでいっても収まりないので、次の質問へ行きます。

4番といたしまして町長が以前より提唱されております避妊薬による個体数管理なのですが、以前、課長答弁では、農林水産省東海農政局、それから環境省に確認したが、全国的にはそのような事例がないとの発言でありましたが、再度申し上げたいです。

今後人口減がますます進み、人の力では対応ができなくなることが明白であり、新たな獣害を減らせる可能性があることはやらなければならないと考えるところですが、見解をお伺いいたします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） はい。サルの個体数管理につきましては先ほど議員おっしゃられたように全国的な取組というのは見つけることはできなかったんですけども、その後、農水省の有識者として、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーと言われる方から御意見を伺っております。

また、農水省の農研機構という、農業と食品産業の発展のための研究開発を行う機関がございまして、シカの不妊化ワクチンの研究を行っております。これはシカの生息密度を適切に保つために、産ませないための不妊化ワクチンの開発を行っているものでございます。

オスジカの去勢をすることではなくて、交配するがメスを妊娠させられないオスをつくるというものでございます。

しかしながら野生動物の動物実験ということで、なかなか困難なところが多くありまして、また環境への影響評価ということも難しいことがございますので、早期の実用化に向けては、厳しい状況となっております。

今後も個体数管理については、様々な取組を注視をしてみたいと考えております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） はい、この避妊薬ですけども、町長は以前からどうやというお話もされてるし、町村長会でも様々な御意見をやりとりをされている。それから上部、国に対しても、そういう意見を上げられているというふうに聞いとるわけですけども、その辺の状況はいかがですか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

久保町長。

○町長（久保 行男） 昨年も東京、農水省へ一緒に行って、今我々の地域では、今議員おっしゃられたような罾をやったり、それから銃で捕えたりと。どんだけやっても個体数は減らない、逆に増えとるぐらいです。

これイノシシなんかは捕れば捕るほど、個体数を減らさないように、獣はさらに子供をつくらうとしてやるので、そんなことから、捕って、捕まえて殺してていうのをやめて、何とか国のほうでももっとこう真剣に前向きにやってくれということ要望に行きました。

昨年違う団体と一緒に行ったんですけども、これもともと、全国でも結構そういう個体数調整するために、経口避妊薬、今課長言いましたように、ワクチンをつくってというのを、農研機構は 2016 年かな、いっぺん研究されて、そのあとなかなか今進んでないんで、多分、環境省の関係だとか分かりませんが、その辺の調整が整理をできない部分があるんかと思います。

何とかもっともっと国のほうで、何百億もかけて、獣害対策費用、国のほう見てるんで、10 数年前は、たしか年間 200 億も 150 億ぐらいの予算が今もう多分 4、500 億を超えてると思う。そんなお金かけてもちょっと減らない。なので、私はもう以前から、何とか子どもを産まないような、調整できるような研究を進めてくれというのを申し上げてます。でも、私の力で今のところどうにもならん。ただ、要望をまた今年度もやろうかなと思ってます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9 番（前川 勝） はい、この件も高崎山の所長さんに伺ったところですね、避妊薬はやはり山へまいて、それを食べることによって、そういう形に持っていくのは、僕も嫌な思いしたけども、大変難しいようです、高崎山の個体数管理はもう手であげれる状態にして、ほいで週 1 回、5 か月続けないとそういうメスのサルですね、がそういう形にならんというようなことがおっしゃられてました。

だからその意味においては、課長おっしゃったワクチンですか、それがうまく機能する、難しいようですけども、やはり国がやっぱり動いてもらわんと、それぞれの地方自治体で何かできるかっていうとそれはもう一生懸命、捕獲に努めるしかない。

もうこれからだんだん人減っていく、もう獣の天国になってくるという状況がもうまさに見えている、奥のほうから。本当にそれを防ぐためには、やはり、もう国が動いてもらうしかないので町長にはぜひですね、国に対して、県に対して、上げていっていただいて何らか本当に、もう本当に人が疲弊していくっ

ていう部分ございますのでぜひ、町長の御努力を是非していただきたいなというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

久保町長。

○町長（久保 行男） はい。同じような、私の申し上げたような意見を、三重県の国会議員の先生も一緒に言ってくれてますので、ちょっとでも前へ進むかなと思います。

農研機構やったのは、ヤギに同じような形でやって、試験結果を得てます。シカもやったんですけども、シカはオスジカにワクチンを打ってやると15%ぐらいしか増えやんのですけども、そのままいくと、もう5年たったら2倍に増える。これもうずっと続けやなやっぱりあかんのかなと。その辺に、農研機構さんがやってる研究段階でも難しい部分があるんかなと思いますけども、もっと前向いた何かこんなに社会は科学も進んだのに、もっと獣のほうの対策はできやんのかな。これはイノシシとサルとシカが特にひどい部分があるんで、はい。

シカなんかは、植林をやってもすぐ芽が食われる。こんな状況もあるんで、何とか、こういう違う方法で、獣害対策を進んでいければと思います。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） もうきりがっていう部分では、次の質問に移らせていただきます。

5番といたしまして、猟友会会員の39人の皆さん（及び町外の狩猟家）があるわけですけども、今の時期は狩猟期でありそれぞれの狩猟を行って活動をされていると思います。

この狩猟期間について町内の捕獲数をつかみ、有害捕獲数と合わせた年間の総頭数をデータとした駆除計画の必要性を考えるとところですが、見解をお伺いいたします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） 狩猟期の考え方なんですけども、狩猟期がつけられ
ました頃の状況というのは、獣の数がまだ少なく、年間通じて猟をすると絶対
数が足りなくなるという恐れがあったと思われま。

また、動物性たんぱく質を摂取するためにも、獣の肉は必要不可欠でありま
した。しかしながら、近年は野生のシカ、イノシシが増え過ぎて農作物への被
害が発生し、その数を減らすために、有害駆除として、狩猟期間以外の猟を許
可をしているものでございます。

国の補助金につきましても、緊急捕獲対策事業として、猟期以外の駆除を助
成されておるものでございます。

狩猟期間の狩猟頭数につきましては、県猟友会、各地域猟友会会員から報告
が上がりまして把握はされております。

被害防止計画におきましても、増え過ぎた野生鳥獣を減らすことが目標であ
るため、狩猟期間以外の狩猟等数を目標頭数として定めてまいったところでご
ざいます。

また、猟友会の有害駆除委託につきましても、あくまで狩猟期間以外を対象
としておるところでございます。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） この問題も大変難しい問題だろうというふうに思います。
だけど頭数も分からん、何も分からんのに駆除計画もないんであって、ぜひで
すね、その辺つかまれて、県との猟期の期間も踏まえてです、捕って行って
いただける方向の計画もつくっていただきたいなというふうに思います。

先ほどちょっと話出さなかったんですけどもクマに対しては、市街地で銃猟
が許可されるということも閣議決定ですけども、出ておりました。

これはやはり、クマだけではなくって、ある程度安全は当然確保しつつですね、クマにかかわらず、イノシシにしろシカにしろサルにしろ、こういうことが、国がクマについては人がね、亡くなってるというようなこともありますのでこういうことも進んだんだらうなっていうふうに思うわけですけども、こんなこともやはり、町長のお力で国に対しても、ほかのクマではない、ほかのものについてもそのような国を動かしていただきたいなというふうに考えるところですよ。

それから今回地域おこし協力隊の奥田さん、これ農業に関わることに、なられるということではありますが、農家の高齢化や後継者不足で全体の出荷量が減少しているのが課題だということで、それに対応した結局、出荷量が減るといのは獣害で取られた、食われたものが出るから出荷量も減るところへも行くわけなので、奥田さん若い力をですね、出してもらって、いろんな様々な形で御協力を願うのも1つではないかなと思いますが、課長いかがですか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） 農林課としましても農作物の被害が増加してまいりますとそういった生産量に影響が出てくることからですね、施設整備の補助金を出したり、地域として全体を囲むような、大型の網とかを設置する補助もいたしておるところでございます。

今回、新たに協力隊員として来ていただいた方にも、そういった鳥獣被害の状況もお話ししながら、御協力をしていただけたらなと考えております。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） はい。それでは次の質問に入らせていただきます。

2点目の有機フッ素化合物P F A Sの心配はないかということで、全国的な問題といたしまして、この化合物について発がん性が指摘されておりますが、当町浄水場においての状況をお伺いいたします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） それでは前川議員の御質問にお答えさせていただきます。

本町につきましては、令和5年度よりPFASについて原水及び水道水の水質検査を実施しております。結果につきましては、令和5年度、6年度、いずれも国の暫定目標値を下回る検査結果となっております。

なお検査結果につきましては、ホームページで公表して掲載しております。今後も国の基準に適切に対応し、引き続き安定的に水質検査を実施し、住民の皆さんに安心・安全かつ安定的に水道水を供給できるよう努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） この質問につきましては坂井議員が後ほどまた詳細な御質問していただけるというふうに思っておりますので、町民にとってまずは安心であればいいわけで、そういうものがなければいいわけです。

ただ、ただというか岡山県の吉備中央町においては公費で初検査をということで、新聞にも載ったわけですけどその辺も今後、多気町は必要ないかもわかんないですけども、検査をするということなのでぜひですね、町民にそういう安全ですよということを広げていくということをしてぜひ、するとおっしゃってるし、そういうことで進めていただければなあというふうに思います。

次入ります。3点目といたしまして、下水道管路に起因する道路陥没は大丈夫か、ということで伺います。

埼玉で起こった道路陥没に伴う事故により落ちたトラックの運転手さんの救出に3か月程度かかると報道されております。家族にとっては言い表せぬ思

いだと推察するし、このような事故が今後絶対に起こってはならないと思いますが、当町が関係する管路の状況をお伺いいたします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） それでは御質問にお答えさせていただきます。

本町における下水道事業は、公共下水道事業、農業集落排水事業、浄化槽事業の3つの事業により、整備を進めております。

御質問の下水道管路に起因する、道路陥没に関わる事業としては、公共下水道事業、農業集落排水事業における下水道管が対象になってくると思います。

本町の公共下水道管路の延長は 95.1 キロ、農業集落排水管路の延長は 39.9 キロでございます。下水道管の最大の口径は 45 センチとなっております。そして、下水道管のマンホールポンプ及びマンホール管の点検・清掃を毎年、実施しております。汚れが多い箇所につきましては、年数回実施し、その他の下水道管につきましては順番に点検・清掃を実施しております。これまでに大きな異常があったという報告は受けておりません。

なお公共下水道につきましては、供用開始から 20 年が経過し、農業集落排水事業につきましては、供用開始後 28 年を超える地区もございます。下水道管の耐用年数はおよそ 50 年と言われております。それぞれの下水道管につきましては耐用年数を経過していない状況となっております。

今後も点検・清掃業務等を実施し、適切に下水道管の維持管理に努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） 町内においては、今の 45 センチですか。これが管路の太さで、この間の事故のは、最終 5 メーターというようなことで載ったと思うんですけども、例えば高須へですね、行く高須のあたりにある管路というのは、

ちなみにどんな太さちゅうか、ファイなんですか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） 多気町の公共下水道がですね、流域下水道最終つなぐところがあるんですけども、多気町におきましては流域下水道につなぐ管で1番最大の口径はですね、80センチとなっております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝） 多気町のは80なんだけど、高須へ入っていくところですね、多気町分、ほかも含めて、太いのあるのではないかなと思うんですけどもそれはないんですか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） 最終高須にございます流域下水道の管がどれぐらいあるかっていうのはですね、ちょっと把握はしておりませんが、先ほど言わさしていただいたように、多気町は最終高須の流域下水道つなぐ管は最大で80センチっていうところがございます。

それで、埼玉県事故を受けてですね、国のほうから緊急の点検がするようになっていうところがありました。三重県ではですね、対象になっている管がないというところがございます。

緊急の点検の管ていうのはですね、2メートル以上1日の使用量が30万立米、それが緊急の対象になっておりまして、三重県自体にそういう管はないというふうなことでございます。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

前川議員。

○9番（前川 勝）　　そういう、課長の今の答弁で町内含めて高須に行く管含めて、県内、そういうのはないということなので三重県を走っている道路を走っている人たちはその心配はしなくていいと、安心してくださいという町民の皆さん、これを見られた方はですね、管路にああいうことのない、もうすごい状況が皆さんもテレビで見てこられたと思いますけども、ああいう状況は発生、町だから人がよく住んでるから、大きなもんだという理解なんだろうとは思いますが、そういう意味では、多気町を含め、近隣含め、皆さんそういう事故は起こらないというふうに思います。

ただ、小さい事故はあるのかなと。といいますのは、下水管路の陥没というのは中部地区ですね、でも様々起こっているように聞きます。町内では今、ないと思うんですけどもそこだけもう一度お願いします。

○議長（志村 和浩）　　当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也）　　毎年、町道においてですね、どれぐらい陥没があるかちゅうのはちょっと上下水道課のほうでは把握はしていませんが、議員おっしゃられるようにですね、埼玉県であったようなですね、そういった大きな陥没の事故が出るっていうのは町内では可能性としては低いのではないかと思っております。

以上です。

○議長（志村 和浩）　　答弁が終わりました。

○9番（前川 勝）　　以上で終わります。

○議長（志村 和浩）　　以上で前川議員の一般質問を終わります。

ここで約10分間の休憩を挟みます。再開は10時、時計で10分とします。

（ 9時57分 ）

（ 10時10分 ）

(2番 坂井 信久 議員)

○議長(志村 和浩) それでは再開致します。2番目の質問者坂井議員の質問に入ります。

2番 坂井議員。

○2番(坂井 信久) それでは、ただいま許可を頂きましたので、ただいまから一般質問を開始いたします。

今回、私は一問一答方式によりまして、2点の課題について通告をいたしております。

1点につきましては、本町の水道水における「PFOS」及び「PFOA」及び関連課題についてでございます。

2点目につきましては、香肌奥伊勢広域連合の名称変更はあるいはその内容についての改革はできないのかと、こういうふうな質問でございますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

まず質問に上がる前に、今回岩手県の大船渡市で起こりました山林火災によりまして、詳細は分かっておりませんが、約90世帯ぐらいの方が被災を受けておられまして、大変な思いをされておられると、こんなふうに思っておりますが、まずそれについてのお見舞いを申し上げたいとこんなふうに思っております。

それでは1点目の問題に入っていきます。発がん性など、健康被害が懸念をされます有機フッ素化合物「PFAS」というふうと呼ばれておるそうでございますけれども、全国の河川や地下水などから相次いで検出され、検出地点付近の住民の不安も高まりを見せており、国民的な関心も高まりつつあります。

いまだ国内においては、「PFAS」「PFOA」の摂取が主たる要因と見られる個人の健康被害が発生した事例は確認をされておりませんが、どの程度の量が体に入りますと影響が出るかについての確定的な知見がなく、現在も国際的な様々な知見に基づく、この見当がちょっと変換間違いしてございまして、検診の件に論ずる論でございます、検討が進められておると聞いておるところで

ございます。

最近のメディアにおきましても、この「P F A S」に関する記述を目にすることが多くなり、昨年 12 月 14 日、夕刊三重では松阪市では 2020 年度より検査を実施しており、目標値を下回っているというような報道がございました。

また、三重県におきましても、1 月 31 日中日新聞によりますと、県が管理をする 20 河川 20 地点を昨年 12 月に水質検査を実施をしまして、検査を公表して、「P F A S」につきましては、1 リットル当たり 50 ナノグラムとしております国の暫定目標値を上回る地点はなかったというふうにされております。

そこで、以上のことを踏まえまして、下記の質問いたしますので、回答をよろしくお願ひしたいというふうに思います。

まず 1 番目でございますけれども、担当課長としてこの問題をどのように認識しておられるのか、お伺ひしたいと思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） それでは坂井議員の御質問にお答えさせていただきます。

全国数十か所で検出されております「P F A S」については人の生命、身体または健康への影響が懸念される重要かつ重大な事案であることを認識しております。また水道水の汚染が強く懸念されている現状があることも認識しております。

本町につきましては、先ほどの前川議員のときにもお答えさせていただきましたが、令和 5 年度より、「P F A S」について、原水及び水道水の水質検査を実施しており、結果につきましては、令和 5 年度 6 年度いずれも国の暫定目標値を下回っている結果となっております。結果の公表につきましてはホームページに掲載をしております。

今後も住民の皆さんに安心・安全かつ安定的に水道水を供給できるよう努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） ありがとうございます。私は今回、この問題を取上げましたのは、決して多気町の水がどういうふうなことであるかということではなしに、いかにこの議会での中にですね、この問題を取上げて、安心安全で、1人でも多くの方が、こういった機会をとらえて、安心安全で、たくさん飲料していただくというようなことが、皆さんに伝わればなというふうに思ったところで、こういうふうな問題提起をしたということでございます。

いずれにいたしましても、いろんな方面で関心を持たれる方がございまして、私の経験でいきますと、このシャープを立地してからですね、ちょっと話がずれますけれども、非常にこのにおいを気にする方がございまして、相当な費用をかけてですね、3日間、機械を設置をしてその家の周辺を調査をしたと。周辺の方に聞いてもどなたもそういうにおいがせんということがございまして、当時私環境課長してございましてシャープの屋根に登ってですね、触媒機の傍まで臭い嗅ぎに行った、そこではやっぱり若干においがしたというような様々なことについて、デリケートな方もございますので、こういったことも含めて、関心を持っておられる方も多いんじゃないかということで、今回の質問になったわけでもございまして、決して多気町水がどうのこうのというふうな、現状を私はある程度分かっておるつもりでございますので、そういった前提でよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

それでは2番に行きます。本町におきましては、水源を県企業庁南勢水道水それから自己水、これは地下水をくみ上げておるわけでもございまして、その量については変わっていないと思いますが、確認のために、契約水量、県の企業庁とですね、契約水量並びに自己水量、最大どれぐらいなのか、お伺ひしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） それでは御質問にお答えさせていただきます。

南勢水道の契約水量につきましては1日当たり 6050 立米でございます。これは以前から変わっておりません。

自己水につきましては平均でございますが、1日当たり 2500 立米でございます。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） この自己水の最大くみ上げ量は、お聞きしたい。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） 最大で約1日当たり 3000 立米ほどでございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） 3,170 トンだと思いますので、確認をしていただきたいというふうに思います。

それから、現在までに、この「P F A S」の国際的な規制、あるいは禁止など、国際条約、あるいは条約になっておらなくてもですね、そういったことが何か記載があるいは記述があるようなことを知っておられたら、これについても教えていただきたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） それでは御質問にお答えさせていただきます。

「P F A S」の中でも、有害性が高い代表的なものに「P F O S」「P F O A」があり、幅広い用途で使用されてきましたが、現在、国内では化学物質の審査

及び製造等の規制に関する法律で、使用・製造・輸入が禁止されております。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） 実はこの物質はですね、一部は昔はですね、数か国で実は水道水に混入をさせておったという実は歴史的な経過もあるわけでございます。といいますのは、フッ素が主成分であるということで、歯によいということで逆に、そういったことをしとった国が昔ですね、何か国があったと。ところが時代が進みますと、化学的な分析も進むということで、やっぱり体によくないということが徐々に分かってまいりまして、現在ではそういった水道水ですね、一定量を混入するというところはないようでございますけれども、歴史的にはそういうところも過去にあったということがございます。

こういったことも、やはりいろんな人の考え方の中でですね、時代が変化するとともに変わってくると。したがって、今の水道水に含まれております様々なものでもですね、もっとも時代が進みますと、これはどうかということが、将来ありうるかも分かりませんということは、これは全てのものが感じておらなければならないというふうに思っております。

いずれにいたしましても、最近全国、あちらこちらで、今度シャープさんでも、アオイ電子さんがですね、半導体の一部のなんか部品を今度つくられるということに、なるんだろうというふうに聞いておりますけれども、この「P F O S」につきましてはですね、金属メッキあるいは泡消火剤、それから今申し上げました、半導体の関係で使用がされるということでございますので、そういった関係もありまして、今回の質問に至ったわけでございます。

それでは次進みます。4番目の国内の水道水にこれらに関する目標値など設定されている場合、それらについてもお伺いしたいと、法的なものがあればお伺いしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○**上下水道課長（上山 善也）** それではお答えさせていただきます。

水道水は、水道法に定める水質基準に適合するものでなければならず、水道事業体に検査の義務が課されております。

本町の水道水については、水道水として遵守しなければならない水質基準 51 項目は全て基準値を満たしております。「PFOS」「PFOA」につきましては、現在、環境省では、水質管理目標設定項目に位置づけ、「PFOS」「PFOA」の合計値で、1リットル当たり 50 ナノグラムという暫定目標値を設定しております。

なお、令和 8 年度より、水質管理目標設定項目から水質基準項目となる見込みであると聞いております。

以上です。

○**議長（志村 和浩）** 答弁が終わりました。

坂井議員。

○**2 番（坂井 信久）** ありがとうございます。次も同じような答えだと思えますけれども、県の企業庁でですね、これらに関する目標値など設定されているのかをお伺いしたいと思います。

○**議長（志村 和浩）** 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○**上下水道課長（上山 善也）** それではお答えさせていただきます。

水道法に定める水質基準項目を遵守しております。「PFOS」「PFOA」につきましては、国の暫定目標値を遵守し、三重県企業庁におきましては令和 2 年度より水質検査を行っており、いずれも国の暫定目標値を下回っております。

以上でございます。

○**議長（志村 和浩）** 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） そうすると、県につきましても、国に準用すると、こういうことでよろしいわけですね。はい、了解いたしました。

それでは次に本町独自、いわゆる自己水ですね、自己水の管理につきましても同様に取られることがあればお伺いしたい、あるいは決められておることがですね、今お話をされました国に準用しておるということであれば、確認をしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） はい。それではお答えさせていただきます。

本町におきましても水道法に定める水質基準を遵守しております。「P F O S」「P F O A」については南水同様、国の暫定目標値を遵守し、令和5年度より水質検査を行っており、国の暫定目標値の1リットル当たり、50ナノグラムの10分の1であります5ナノグラムを下回っておるという検査結果が出ております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） それでは次に県下でですね、最近様々な新聞、私、切取りをですね、たくさん持ってきておりました、非常に最近このことに対する記述が多いということもございます。そういった中で、現在この三重県下に於いてこの件に関する状況など知り得ている情報があればですね、お伺いしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） それではお答えさせていただきます。

令和2年度に「P F O S」及び「P F O A」を水質管理目標設定項目に位置づけて以降、6年度までに「P F O S」「P F O A」の水質検査を実施した県内

上水道事業のうち、暫定目標値を超える数値が検出された事業数は1事業でございます。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） ありがとうございます。以前にですね、桑名市でこの「P F A S」について検出をされたという報道がございました。それについて、知り得る範囲でですね、上山課長が知り得る範囲でお伺いしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

上山上下水道課長。

○上下水道課長（上山 善也） はい。それではお答えさせていただきます。

桑名市については、令和2年度から4年度に1地点で国の暫定目標値を上回る検査結果が出たことを報道等で確認をしております。

現在は全ての調査地点で1リットル当たり5ナノグラム以下となっており、国の暫定目標値を下回っていることを国土交通省が実施した検査結果にて確認をしております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） 実は先般の、これも報道で知り得たわけでございますけれども、私どもの三重県ではありません。岐阜県で、各務原市ですかね、この地下水から「P F O S」が検出されたということで、これを使用している地域が相当のエリアがございまして、そこの子どもさんにですね、確か83人やと思うんですけども、100人未満の方にこの「P F A S」の検査をしたと。そうしましたら、血中濃度がですね、アメリカで目標値は1リットル当たり20ナノグラムらしいんですけども、それを上回っておったと。8割の方が上回っ

ておったというような結果もありまして、早々にですね、水を飲まないような対策が講じられておるといようなことも聞き及んでおりますけれども、県内は今、上山課長のお話によりますと、桑名市で1件ありましたけれどもそれ以外ないということで、安心して、どこの自治体においてもですね、大半が県の企業庁の水を使っているところは非常に多うございますので、問題がないのかなというように、思いますけれども、そういう事例もあるということをお承知お聞き頂きたいというふうに思っております。

それでは次進みます。本町ではですね、シャープ誘致の際、独自の排水基準を策定をいたしまして佐奈川に放流をしてきたと、こういう経緯がございます。

これら水質項目では、当時の国の排水基準を上回る基準と聞いております。これにはフッ素に係る項目が入っているのか、お伺いをしたいと思います。

当時、町長が企画調整課長をしておられ、松阪の大学の吉田教授にですね、この件についてはお願いいたしまして、非常に厳しい基準をつくっていただいて、それに準用してシャープのほうも対応していただいて、こんなふうに聞いておるわけでございますけれども、やはりああいう電子部品を洗うのにはやっぱりフッ素が、若干どうなんかなという気もいたします。問題はないんでしょうけれども、それらについてですね、ちょっとお伺いをしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） 先ほどの質問についてお答えさせていただきます。

シャープが独自で調査する分析結果につきましては、フッ素の項目があります。また多気町が実施する工業団地のモニタリング調査というのもございます。こちらにもフッ素入れております。

ただし、これは公共水域で行う水質調査の中のフッ素という項目であり、元素を含まない無機フッ素と呼ばれる種類で、元素として身の回りにあるいろいろ

るなものに含まれているものだけではなく、海産物など食べるものにも含まれているものであり、人体や環境に有害視される、有機フッ素（PFAS）とは別物ということになります。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） そうしますと、私が今回この様々なことを今聞いておるわけでございますけれども、それとは一緒のものであると、いわゆる無機フッ素というような呼ばれる類だと、こういうようなことでよろしいですね。そういう解釈でよろしいわけですね。はい。分かりました。

次に入ります。そうしますと、このシャープからの水質データにつきまして、は現在、年何回、ちょっと関連をいたしますので、提出されておられるのか、ちょっとお伺いしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） シャープのほうは毎月測定をされ結果をまとめられ、それを1年分、年1回、こちらのほうに提出頂き、確認をさせていただいておるといような状況でございます。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） 了解いたしました。次に入ります。その結果につきましては、現在何も問題がないというふうに思っておりますけれども、確認のためにですね、これらにつきましての町の見解というものをお聞きをしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） はい。フッ素につきましては、法規制値というものはございまして、これは1リットル当たり8ミリグラム、というようなものでございます。

また規定値というのはこの数値をさらに下回る0.5以下としており、さらにシャープさん独自で自主規制値を設けられておるんですが、これをより厳しくし0.3というふうな目標値を設定されており、毎月の測定ではそういった数値が検出されない場合もありますし、0.1程度と低く、問題のないということ判断をしております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） ありがとうございます。続きましてですね、これも関連がございますけれども、こういった確認をするのはですね、次の問題12番目に入るんですけれども、多気町の自己水ていうのはまさに佐奈川及び櫛田川の伏流水を水脈といたしておりますのでですね、私も今回こういった問題も関連をして、様々にお聞きをしたところでございますけれども、このシャープ創業時に比べてですね、水質の変化が、量も当然変化があるわけがございますけれども、そういった変化等が、当時とあるのかですね。創業時と、もう恐らく20年以上経っておると思いますけれども、あるのかどうかをお伺いしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） はい。シャープが創業する前に行います環境アセス、というのがございますのでその当時の書類を確認したところ、アセス時にはフッ素は、1リットル当たり0.43ミリグラムということでした。

その後多気町で行っておりますモニタリング調査毎年ありますがそれも確認したところ、大体0.1程度ということで創業当時から、特に大きな変化はな

いというふうに判断しております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

久保町長。

○町長（久保 行男） ちょっとだけ。坂井議員からちょっと簡単にすっと出られたんですけども、佐奈川は櫛田川の伏流水ってこう言われたんで、伏流水ではありませんので、地下水ですので、ちょっとその辺だけ。ていうのは、平成2年と3年に地下水調査やって国土交通省でも協定書を交わしまして、伏流水ではないですけど、調査を続けてくれということでその後5年間ずっと地下水調査っておりますので、伏流水とはみなさないということで今。ていうのは、櫛田川の堤防から50メートル以下、例えば工業用地でいくと、法じりから50メートル、それから深さも8メートル以下ということで、問題外ということに、お互いに協定を交わしてますので、ちょっとすっと出たんで、伏流水と言われると、河川法で引っかかってきますので、はい。ということでよろしくお願います。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） 町長の言われることは十分分かります。ただし私らとしての感覚はですね、舗場整備したときでも、松阪興産からいわゆる下がバラスいわゆる欠き込みですので、30cmも表土とりますとですね、欠き込みになってまして下もう水がどんどんどんまいてきますので。だから私らの認識としてはですね、法的な定義としては伏流水ではないということを恐らくおっしゃったんだろうというふうに思いますけれども、事実上はあの下がずっと水脈が流れておるといような私らは小さいときからそういう認識をしておりますので、そういった意味でいってですね、私は決して法的に雨水水を多気町が使ってるという認識ではありませんので、御理解頂きたいというふうに思います。

なぜこういうことをくどくどお聞きをするかというふうに言いますとですね、先月の2月28日付の中日新聞にこれもよりますとですね、四日市の市民団体が市内で実施した水質調査の結果、ある河川のですね、一部からこの「P F A S」の汚染の発生元として、河川の上流部にある産業廃棄物処理場ですね、どうもそれが怪しいと、非常に高い数値が検出をされたということで、県にその調査を申入れておられます。

そういったこともございますので、多気町ではこういった関連するような工場は櫛田川の上流部やとか、あるいは町内にはないというふうに私は認識をしておりますけれども、そういった違法にですね、何らか河川付近にそういった産廃というようなものが捨てられた場合は、将来的にはそういったものも懸念をしてかないかんとということがございますので、水道課長のほうから様々にお話ございましたような検査自体はですね、当然これから毎年続けていくということになるんだろうというふうに思いますけれども、多気町におきましても実はこれも関連したということになりますけれども、これは産業廃棄物はほっておきませんけれども、相可に最終処分場がございます。この水質検査はずっとやっておるわけでございますけれども、これもやはり、永年ですね、やはり美化センターの運営協議会がなくなっても、相可一区のほうに提出、あるいは町の町のほうへの提出っていうのは検査をして続けていくという私は必要性があるというふうに思っております。どんなふうなものがですね、中に捨てられておるか、全て確認はできませんので、この点について、ちょっと環境課長おられますのでですね。これからも永続的にあそこの水質検査については続けていくというようなことも確認をしたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） はい。今現在私先ほど申し上げましたように調査をしておる公共用水域での調査というのは、無機フッ素化合物に対してでござ

ざいます。

今いろいろニュース等で問題にされておる「P F A S」と呼ばれる有機フッ素化合物につきまして、これは人体に対して有害だと、なかなか自然界で分解されにくいという物質ということになっております。

これが大きく分けて「P F O S」と「P F O A」というふうに、2つをまとめて「P F A S」というんですが、1万種類以上の物質に分かれるということ非常に調査も難しくなっております。

ただ上下水道課長も申しあげましたように、8年度から、恐らく水道法上の水質項目に入ってこようかということもあります。公共用水域につきましても、そういった調査ができる業者も確認し、モニタリングをする必要もあるかなと検討しております。

今後、近隣市町も動向もちょっと確認しながらですね、必要があればモニタリングをしていくことも必要かと思っております。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） どうかよろしく、今後についてもですね、継続的に調査等お願いをしたい。

またこれらの原因なるべくその工場につきましては、金属メッキ工場だとかですね、半導体の関係の仕事、あるいは泡消火剤、それから「P F O A」のほうにつきましては、繊維やとか電子基板、あるいは自動車、防護服、こういうふうな関係の工場付近、あるいはアメリカ軍の米軍基地だとかですね、ああいふふうな基地の周辺でそういうのが特に多いということで、基地の問題はないと思いますけれども、こういった工場がですね、町内あるいは上流部にあるというような情報も掴んでですね、これからはそういったことについても、様々な気づきが必要だというふうに思いますので、そういった情報も得ながらですね、水の管理につきましては適正に進めていただきたいというふうに思います。

以上で、1点目の質問終わります。

2番目の香肌奥伊勢広域連合の資源化がついておりますけれども、名称変更については、あるいは改革はできないのかという問題についてお聞きをしたいというふうに思います。

この問題につきましては、私は以前にも質問させていただいております。そもそもこの問題を議論されたことがあるのか。構成団体に本町議会でもこれを変更していただきたいとの議員があるというふうに私の名前出していただいて私は結構なんです、言っていただいても私は一向に構いませんから、ぜひこの議論をしていただきたい。

私はこの問題につきましては一義的には香肌奥伊勢広域連合組合のほうでこの問題については議論していただきたいというふうに思っておりますけれども、たまたま久保町長がですね、今この連合長をしておられるゆえをもちまして、私も一般質問をこの機会にさせていただきたいというふうに思って発言をさせていただいておりますので、よろしく願いをいたしております。

以前にも、これにつきましては発言をいたしました。この香肌狭の定義ですね、これ私調べましたんですけれども、こういうふうにしてある「櫛田川最上流部より、一部には波多瀬付近まで」あるいはもうほかの書き方につきましては「下出江の勢和山荘付近まで」というふうに記載がございます。これ、今現在の多気町ではですね、旧の勢和村さんにつきましては、たまたま勢和山荘までということになりますと、これは当然含まれますけれども、この香肌奥伊勢広域連合ができたのはですね、まだ平成18年以前の合併以前の飯南飯高が入ったのときですね、構成された団体のつけた名称でございます、平成18年に合併をして、飯南飯高は松阪市のほうへ入って当然この連合から外れていったというようなことの歴史的な経過もあるわけでございますけれども、そういったことを踏まえますと、当然その構成団体が変わったら通常はですね、一般論として名前を変更するのが当たり前の私は話だというふうに思っております。特に、1番負担金がたくさん払っておる今多気町、あるいは1番ごみの

量が多い多気町がですね、この名称に入っておらん、そんな馬鹿なことは私は一般論としておかしいと思います。

僕は久保町長も私と同じ考え方だと思うんです、本来的には。この問題この後で申し上げますけども後の問題にも私はこれ引っかかってくるはずなんです。ということをもまず申し上げたいと思いますけれども、まず、組合議会の松木議員がおられますけれども、組合議会です、この問題を議論された、あるいは提起をされた議員がおられるのかどうかを確認をしたいと思います。

よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） はい。以前令和4年6月議会で御質問頂いたかと思いますが、その際にもお答えいたしました。が、連合議会でこの名称につきましての議論がなされたことはございません。その後も変わっておりません。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） あまりこれを言いますと連合議会の組合議員の方を責めるというふうなことになるか分かりませんが、それぞれ皆お考えがありますので、あまりそこについては突っ込みたくはないんですけれども、一般論としてですね、先ほども申し上げましたように、構成団体が変わり、あるいは今はもうRDFの燃やすあれではないんですから、資源化ついとるのもこれもおかしな話で、いつまで資源化を引きずるんかなと。この北川県政の最大の負の遺産です、県政でも北川知事の時代から、いわゆる起債が倍に増えたということはもうこれ明らかになっておるわけでございます。特にこの17市町村があれに参加をして、そういったところの市町村の損害額も含めたらですね数千億ですよこれ、損害が。この資源化に参加をしたことによって。6000円で買い上げるトンというやつを1万2000円最後はくれと、というような1万8000

円の差をしておったということで、そういうような不誠実さがあったこの県政の進め方にですね、いまだにその資源化をつけておるのは三重県でもこの団体だけですわ。そやで、当然この名称を変えていただいて、多気大台大紀広域連合というふうに私はしていただきたい。資源化も外す。この際私はこれが町長さんの私は務めだというふうに思います。そんなふうに思っておるところでございまして、どうかその点につきましてもですね、御検討頂きたい。

で、書いてありますように、特に私ら旧多気の人から多く聞きますのは、いわゆる分別の方法がですね、非常にもう煩雑で難しいということはもうこれ毎回恐らく職員の方も同じ自分の在所で聞いておると思います。したがってうちは以前のときには誰も見張りがおりませんでしたけれども、必ずごみの捨てる日の後にはですね、区長さんが来て写真を撮ってこういうのはまた返す、これはあかんとか、あれをして、私も一遍返されましたけれども、非常に難しいと。以前よりこのいわゆる資源化になっておる部分が少ないんとかやうんかよと。それでも非常に煩雑やと。改めてその名称も含めてですね、そういった改革も、久保町長の手で私はやり遂げていただきたいと。連合長を多気の地元の町長さんがしておるんで「ぜひゆうてんかな信ちゃん」とこういうふうに私も言われております。したがってそういったことをですね、含めて、改革をしていただく絶好の私はもう機会、もうこの機会を逃すとですね、なかなか久保町長が連合長しておられる機会というのはいつまであるか私分かりませんが、そういった意味におきましてですね、資源化が以前より後退をしておると、今の分別方法では。というふうに私自身は感じるところでございまして、特に、旧多気地域の多くの方がですね、非常に今度の分別方法については、分かりにくいというというんか理解しにくいというふうな声をたくさん耳にいたしておりますので、その名称とともにですね、そういったことも改めて今度焼却方式にするというふうに町長、考えておられますので、この際にですね、その際に、併せて名称も、そういったごみの分別方法もですね、改善をしていただいて、分かりやすいより住みやすいより暮らしやすいですね、ごみの収集形態

にさせていただきたいというふうに思っております。

この点についても、少しお考えをお伺いしたいなと思います。

○議長（志村 和浩） 坂井委員これはもう②の質問に入ってよろしいでしょうか。当局の答弁を求めます。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） 旧多気町地域のごみの統合につきまして、令和5年度から完全に香肌に移ったわけなんです、その際にもいろいろと町として変更点につきましてはPRさせていただいてきております。

基本的には大きくはそれほど変わってないと思いますが、変わった点につきましてもう一度御案内させていただきます。

まず1点目としては、燃えないごみの袋のサイズですね、こちらが、以前、旧多気は45リットルであったものが、香肌のほうは30リットルになったということ。

それから、使用済みの食用油の資源回収、これが今まででしたら、各字にある資源物ステーションのほうで回収ができたものがこれができなくなったこと。

それから、今までがごみのガラス、管、有害ごみが、名称がA類B類C類というような分類の呼び方をしておったものが、ガラスとか金属類、それから有害ごみというような名称を使うことになったという点あたりが1番大きな変更点かというふうに考えております。

基本的に資源化につきましてはまださらにですね、プラスチックゴミについて、今現在は容器包装と言われるような食品を包むような容器類、これらをプラスチックとして分別しておりますが、近隣市町でも製品プラ、ハンガーであったり洗面器であったりプラスチックの製品、こういったものも資源化に進める必要があるということで、県内で徐々に取組が進められてきておりますが、これについても、香肌のほうでも課題意識を持ち、今そういったものをどういうふうに資源化するかということを考えておるところです。

いろいろと後退したというふうに感じられる方もあるかもしれませんが、統合する際に、少しそういった制度の違いというのがありましたが、基本的に大きく変えないように努めたつもりでございます。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） はい。2番目には私様々厳しいことも聞かしていただきましたけれども、やはり町民のためにですね、分かりやすいやはり分別方法、そういったものをぜひ心がけて、今度目指すのは、このRDF方式ではなしに、燃焼方式ということに方針は決定しておるわけでございますから、そのときにですね、再度もう一度私はこの分別についていろいろ分かりやすい分別に考えていただきたいなというふうに要請といたしますか、お願いをしていきたいというふうに思っております。

それから、少しこれは関連をいたしますけれども、昨日も町長の施政方針に対して松木議員のほうから、特に丹生区に対する新しい燃焼のですね、問題について若干お話がございましたけれども、非常に今困難な状況にあるというふうに聞いておるわけでございますけれども、私はそれについては先ほどちょっと町長にそこ雑談に言いましたけれども、この名称と関係あるんです。これはもう吉田議員も同じような見解でですね、多気大台大紀ということにしたら、大紀やらあるいは大台のですね、方らももっと責任感、あるいは連帯感、自分らも何とかせないかんというふうなお気持ちになるんじゃないか。今までは私も名前は申し上げませんが、両議会の方とちょっと少しお話をして私もう直接、私はこんな人間ですんで、言いました。そしたら「もう関係ないんや。」と。手前どもの町長が皆してくれるんやと、こういうような言い方をしておられた方があったんです、このごみの問題については。だからやっぱりその名称もですね、奥伊勢については当然そうですけれども「香肌てなんや」と、いうぐらいの方やと思うんですわ、今の定義でいきますと。大紀やら大台の方につ

いては。だから何も関係ないんやと。そうだけど大台やとか大紀ちゅう名称がついたらですね、自分らもやっぱりなっとかせなあかん。例えば極端に言うたら、多気さんでお願いしたいので次は大台町その次は大紀町で、その燃やす位置をですね、建てるとかですね。そういった議論も私は出てくる可能性もないとは言えやんと思うんですわ。その名前が全然関係ないんやで、何もほんなんやったら関係ないんやと。前からしとる多気でやってもうたらええんやというような感覚のお話を私はされたというふうに、私は思ってますんで、この名称については大変そういうふうな問題も私は含んでおると、私は思います。

この話を昨日吉田議員としましたら吉田さんも全く同じ意見で、絶対名称変えやないかん。そういうふうなやっぱり機運が醸成できやんと。名前まで関係ないことではいかんというふうなことをおっしゃっておられて、私は全く一緒やんというふうな認識をしたわけでございますので、ぜひやはり、久保町長のやっぱりリーダーシップでですね、名称も変更して、あんたところも応分の負担があるんやんなど。考えてもらわないかんのやということをですね、ぜひもう町村会の最高幹部でございますからですね、ぜひ私は言っていたきたい。それはもう今の大森さんやら服部さんよりはるかに期数の長い、県の今ナンバーズリーということを聞いておりますからですね。町長のリーダーシップの中で、名称変更、このやかましいやつがおるんや、おれんとこの議会に、これをぜひやろうということで、やっていただいたら私はそれだけのことだというふうに思いますし、当然多気町議会の松木議員にしてもですね、木戸口議員今日はおられませんが、反対せんと思いますよ。根回し行けと言われれば私いくらでも大台や大紀行きますけど。ぜひそういうふうに名称をまず変更して、そしたらほかの問題もですね、もっともっと解決しやすいと、そういう空気が醸成されるんじゃないかと私はそういうふうに思っております。

そこでこの3番目の問題で、やはり、協力共助も必要ですけどもですね、やっぱり多気町のために、今の名称を変更していただくことが、また、ほかの関係した町村もやっぱりもっと協力をしていただけることになるんではない

かと。それが多気町ファースト、そういう意味でございまして多気町だけよく
するとかではなしにですね、そういうことをすることによって、そこから関係
市町村も同じような空気になって、久保町長になつとか不安ばっかかけとる、
ほうすると我々も協力して、こんな問題について何とかせないかんという空気
が生まれるのではないかと。例えば丹生区でもおれらとこの町長も行くぞよと。
大紀やあるいは大台町の町長も一緒に同行して頼みますというようなことにな
るかも分かりません。そやけど今の名称ではですね、関係ないんやで香肌
で。飯南飯高はもうとうの昔の江戸時代の話や。そやでそんな時代の話はもう
やめて、どこにでも恐らくこんな名称昔のまま付けてるとかないと思います。
さらに申し上げたように資源化っていうのも関係ない、そんなやり方をやって
おらんので、そこで名称変更の問題議論がでやんというのがそもそも私につい
てはおかしい、そんなふうに思いますので、ぜひこの問題についてはですね、
当局の特に町長の連合長のお考えをお聞きしたいというふうに思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

久保町長。

○町長（久保 行男） 坂井議員から、気合の入った御質問を頂きましてありが
とうございます。

場所選定につきましては、これ丹生区へ説明行ってる中でも、いろんな箇所
を検討して、今の丹生の今の場所が1番ということでこれを今変えたりすると、
これも議員も御承知のように、これやってしまうともう空中分解します。と
いうことを前提にまず聞いていただいて、で、議員の多気町アピール、多気町
ファーストというお気持ちでありますので、これもよく分かります。ただ、経
過はちょっと御理解頂いてない部分もあるかと思う、っていうのは多気町の美
化センターが稼働しなくなりました。多気町で燃やせなくなります。で、香肌
のほうへ旧多気の方は、焼却を、焼却やってないんで向こう持ってってますけ
ど、お願いしますという、こういう経過があります。今、私もこの連合議会で
3町運営やってるんですけども、特に今の段階では、違和感はないかなと。う

ちがお願いをして、旧多気町のごみをお願いしますという、こういう経過がありましたのもあります。で、議員もよく御承知のように、香肌狭というのは、松阪飯南飯高、今おっしゃったように、それから勢和の一部が入ってます。で、松阪市の飯南飯高が脱退をしました。けども旧勢和地域は残ってます。だからその香肌が残っとるんです。で、大台大紀は奥伊勢、御承知の奥伊勢、これは旧の大内山やら、宮川やら、紀勢町やらこんなところ入ってます。で、その組織で今、香肌奥伊勢というのをやってるんです。香肌奥伊勢資源化広域連合これは継続してやっています。こうしたことから今後今、一生懸命私取り組んでおります新しいごみ処理施設、これを何としても、できたら今年度中にめどをつけたいなと思って今頑張ってるんですけども、今議員おっしゃっていただいたように、その時期に、新しい施設、新しい形でGOとなったときに、新名称を今、私は考えております。ですから今特に資源化も、今、リサイクルやったりする部分もありますので、これをやっていきますので、もうあと1年2年待っていただいたら、そういう形にきちっといくと思います。今特に違和感のない形でいってますので、大台さんも大紀さんも協力していただきながらやっていますので、これから丹生地区へ協議へ行くのに、大台大紀の町長もどうやと、これは大台大紀の町長さんもいつでも言っていただいたら行きますと言われてます。けど、今の段階では、多分、口を挟む部分が少ないかと思うんです。これからいろんな条件を含めてやるときには、いろんなもの絡んできますので、またお願いせなあかんかなとは思ってますけど、今の段階では、私のできる範囲で、とにかく頑張っていきたいなと思っておりますので、その辺だけ御理解頂きたいと思います。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

坂井議員。

○2番（坂井 信久） いま町長から、私としては非常に納得ができる、あるいは、そういうお考えでこれから進んで頂きたいなというふうなことで聞かせて頂きましたんですね。この問題について私からくどくど申し上げませんけれ

ども、ぜひ新施設が発足したときにはですね、名称、そういったことも含めて、改善の余地があると私は思っておりますので、そのときはどうぞ議論をしていただいでですね、新しい新名称でスタートさせていただきたい。

それから、新しい新施設の用地といいますんか場所問題についてのことについても、今はその時期ではないということを町長がはっきりおっしゃられたので、私もこれ以上は申し上げませんが、やっぱりそういったいろんな人のお力をお借りすると事が前に進むこともございますので、ぜひそういったこともとらえてですね、適切な時期に、そういった方のお力をかりながらですね、ぜひ1日でも前へ進めていただきたいと学校についても保育所についてもここまで順調に進めてきていただいで、今、懸案についてはこのごみの問題がですね、恐らく久保町政については1番のしかかっておる問題だと私はそんなふうに認識しておりますので、そういった意味でもですね、町長がリーダーシップを発揮していただいで、私の考えではそういうふうにしたほうがですね、皆さんも協力をしやすい、あるいはそういう機運が醸成をされるんではないかと。こういうふうな思いで一般質問をいたしましたので、どうか今のお答えは私は十分満足いたしましたんで、そういう方向でぜひ進めていただきたいとこんなふうに思います。

以上で終わります。

○議長（志村 和浩） 以上で坂井議員の一般質問を終わります。

休憩を挟みまして再開は11時10分とします。お願いします。

（ 10時58分 ）

（ 11時10分 ）

○議長（志村 和浩） 再開します。3番目の質問に入る前に、現在の時間はもうすでに11時10分となっておりますので、持ち時間いっぱいを加えますと12時を過ぎることが予想されます。状況を判断しまして食事休憩を途中で行う場合や場合によっては12時を過ぎての質問も状況により引き続き行う事もあり

ますので、あらかじめご了承ください。

それでは3番目の質問者、松木議員の質問に入ります。

5番 松木議員。

○5番（松木 豊年） 日本共産党の松木豊年です。一問一答方式で、学校給食費の無償化について、地産地消・オーガニック給食について、多気町温暖化対策実行計画の進捗状況について、3つの項目について質問をさせていただきます。

最初に、学校給食費の無償化について伺います。通告書では、学校給食無償化と記載した箇所が何カ所か、誤って記載しておるところがございます。正しくは、学校給食費、費用の費を入れていただいて、学校給食費無償化でございますので、おわびして訂正させていただきます。

学校給食費の無償化については、これまで令和4年、2022年の6月の第2回定例会、同年9月の第3回定例会、同年12月の第4回定例会で、質問をさせていただきました。

これらのことを踏まえて、今日に学校給食費の無償化を実現するには何が必要かなどについて、改めて質問をさせていただきます。

最初に、これまで、多気町として国の臨時交付金などを活用して期間限定で、学校給食費の無償化を進めてきたと思います。これらの内容について、どういう中身であったかを改めて質問させていただきます。御説明ください。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

岡井教育課長。

○教育課長（岡井 一宜） はい。それではお答えさせていただきます。町内の小中学校において、令和2年4月分から9月分までの5か月分、令和4年9月分から令和5年3月分までの7か月分、令和6年1月分から3月分の3か月分を国の交付金を活用して児童及び生徒の毎月の給食費を無償としました。ただし、3回とも多気町外に住所を有する児童生徒は除いておるところでございます。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） ありがとうございます。合計3回に渡って国の臨時交付金を活用して、実施をしていただいたというふうに理解しております。

また多気中学校では、町外の生徒さんもおられますので、その生徒さんとの給食費の問題についても調整などに御尽力頂いたというふうにも伺っております。

次の質問に移りますが、文部科学省が令和5年9月に、自治体独自の給食無償化の実施状況の調査をしております。1794自治体中、①として、自治体独自の無償化を実施していたのは722自治体、約40%、②として、全児童生徒を対象にしたのが547自治体、約30%、そして財源の問題ですけれども、自己財源で実施したのが475自治体、約26%となっております。これ直近の全国的な調査であります。

この調査結果についての見解を伺います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

岡井教育課長。

○教育課長（岡井 一宜） それではお答えさせていただきます。この調査は令和5年9月1日時点で、全国の県教委並びに市区町村の教委あてに隔年で実施され得られた回答結果と捉えております。約40%の教育委員会が何らかの無償化を実施をしていたという結果でございます。

当町においては、この調査時点でこの40%には含まれておりませんが、令和6年1月分から3月分まで無償化を実施をしております。また、現在当町では、同時に3人以上町内の小中学校に就学させているなどの条件がございますが、3人目以降の方については3分の1を補助しているところでございます。あくまで補助で無償化ではございません。

また、全児童を対象にした無償化が今回の結果で30%という結果ですが、こ

ちらについても、生徒児童数が少ないことや、財源が豊富である自治体、それから有利な起債が活用できることなど、自治体によって形は様々であると考えております。財源も同じように、自治体によって様々であることから、同様に考えております。

結論的に、この結果を受けて町としては、保育園統合や、小学校統合を今迎える現状では、継続的に無償化を実施していくことは、財政的にはちょっと困難だというふうに判断をしております。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） 詳しい分析結果も、述べていただきました。全体として、どんなふうにお考えになるのか。無償化についての流れが大きくなっているかというふうに思います。例えばですね、全国のPTAの連絡協議会では、この文科省の調査結果をこのように評価をしております。給食無償化の自治体は30.5%、6年で7倍増になっている。この6年というのは、平成29年の文科省の調査のことになると思います。2017年の同様の調査の76自治体から6年で7倍に増えており、子育て支援の一環で給食費を無償化する動きが広がっていますというふうに、全国PTA連絡協議会ではこういうふうに評価をしているわけです。

この全国的な、トータルとしての動きについてどのように評価するか。改めてお伺いします。

○議長（志村 和浩） 松木議員（3）の質問にこれは関係しておりますか。

（松木議員より「まだです。」と声あり）

まだですか。

○5番（松木 豊年） 令和5年9月の全国調査についての見解。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

岡井教育課長。

○**教育課長（岡井 一宜）** 令和5年9月時点での調査結果から全体的な方向と
いうか、回答ということでございますけども、確かに次の通告のところの回答
とかぶるところでございますけども全国的に今、特に小学校の給食費を無償化に
するという動きはかなり高まっているものところも認識はしております。

国のほうでも財源の確保を何とかしたいというふうなコメントも頂いてお
りますのでそういったことを見据えながら、全国的な流れに沿ったような形で
進めていきたいというふうには、今のところは考えております。

以上です。

○**議長（志村 和浩）** 答弁が終わりました。

松木議員。

○**5番（松木 豊年）** ありがとうございます。それでは次の質問、3のほう
に移らせていただきます。多気町の中で、これまで学校給食費の無償化につい
てどのような取組がされてきたかについても、振り返ってみたいと思いき
れども、「学校給食費の無料化・多気町の会」の皆さんが、学校給食費の無償化
を求める町長宛ての要請署名を令和5年11月に提出されておりますが、町長
あてに1239筆提出をされました。

一方で、議会では、同じ町長宛ての要請をする請願が、令和5年の12月の第
4回定例会で採択をされております。

さらに年を明けて令和6年3月の第1回定例会では、学校給食への公的補助
を強め、早急に学校給食費無償化の実現に取り組むことを求める意見書を議員
発議で採択して、意見書を送っております。

このように町民と議会挙げて、そして町長もそのときには、趣旨には全く同
感だと、ただ財政的には厳しいものがあるというようなことであります。

したがって、町を挙げて、学校給食費の無償化を進めようという機運とい
うのは、今までもない盛り上がりを見せておりますし、国に対してもそういうこ
とを求めてきたという経過があると思います。

そして、財政的には厳しいという状況でもありましたので、一般質問でも申

上げましたけれども、当時の試算では年間 6000 万ほどかかるということでしたけれども、志摩市などの例も引き合いにして、中学 3 年生から実施をして段階的に進めていく、そういったことも提案をさせていただきました。

そうした上で、改めて部分的にでも、先ほどの課長の答弁では小学校から進めたらいいのではないかというような意見もあるというようなことも、お話しされましたけれども、全学年、小学校中学校全部に当たらなくても、部分的にでもやれるような方途はないのか、改めて伺います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

岡井教育課長。

○教育課長（岡井 一宜） 町長宛ての署名、それから請願のほう、確認のほうをさせていただきます。

確かに全国的に給食費無償化を求める声はたくさんございます。先ほども申しましたが国のほうでも「小学校の給食無償化を念頭に安定した恒久財源の確保策とあわせて、令和 8 年度以降できる限り早期の制度化を目指したい」というふうに国のほうで述べられております。中学校においても、「可能な限り速やかに実現をしたい」と述べられております。

当町としては、現時点で国の財源確保がない中、進めていくのは繰り返しになります。しかし全小学校、中学校を全ての児童生徒無償化は困難であるとしても、部分的にというのは検討していく 1 つの材料だというふうに思っております。

年間約 7000 万円の賄い材料費が必要であり、食材高騰の中給食費を値上げせずに、不足分は町より補填をしている現状から考慮しても、現時点での全体での全員の無償化は難しいというふうに考えております。

また令和 4 年 9 月の議会のほうでも町長からも、完全な無償化は難しいと答弁をしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） 今の御答弁は全体ではなかなか難しいけれども、部分的な検討、部分的な学年とかですね、そういったところでの検討の余地はあるというふうに理解をさせていただきました。

質問はなかったんですが、国のほうの動向についてもちょっと述べられましたので、予算が恐らくこのままでは修正されて通るといことが言われておりまして、学校給食の無償化についても、動向が3党合意という形で合意されたというふうに聞いております。

おっしゃったように、まだ財源がはっきり、どういうふうに確保するのかということが示されていない問題とか、小学校だけで当面は進めるだとか、いろんなことが、言われております。

28日の予算委員会分科会で我が党の田村貴昭議員が質疑をしておりますが、その中でですね、文科大臣や担当官が答弁に答えられたのは、もう合意文書を棒読みするだけで、何か本気になってこれやろうというのは感じられなかったということが、質問者からも感想として寄せられておりますし、無償化に関する費用についての質問についてはですね、小学校で約3100億円、中学校で約、1700億円。じゃあ財源をどうするのか。政府全体で徹底した財政改革を行ってやりますゆうのにとどまっております、すぐに実現するかどうかは、これからの国民的な運動の高まりが、政府や与党を本気度にさしていくことにつながっていくと思います。

その意味でも、やはり多気町でもですね、無償化についての動きを少しでも一歩でも前に進めていくということが、政府を本気にさせる大きなことにつながっていくのではないかとということを改めて痛感する次第であります。

そして最後に関連してお伺いしたいと思います。今年の臨時議会のときにですね、物価高騰の対応策として、非課税世帯の世帯とその子どもさんへの加算も含めて特別給付金が支給されるようなことが議論されて可決されました。そのときにもう一方での推奨メニューとして、学校給食の無償化などに活用する

ということが、政府からも示されていたと思いますけれども、この臨時会のおときには、そのことについての準備がされておりましたし、今回の定例会にも、あるいは補正予算や当初予算にも、この活用がまだ内容として示されていないように思います。

そこで伺いますが、この昨年の12月に閣議決定された臨時交付金ですね。その推奨メニューの中に、学校給食費の無償化に充てるということが、推奨メニューの1つとして掲げられていたと思いますが、そのことについて、掲げられていたかどうか、お伺いします。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

小林教育長。

○教育長（小林 真一） ただいまの御質問に対して、まず私のほうからお答えさせていただきます。臨時交付金に関しましては町全体の課題ということでこれからの検討になると思いますが、私どもといたしましては思いは議員と同じ思いでございます。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） ありがとうございます。実は令和4年12月の第4回定例会で、学校給食費の無償化についてお伺いしたときに、教育長、同じような答弁をしていただいております。

令和5年度の来年度につきましても、新型コロナウイルス感染症の対応の地方創生の臨時交付金、例えば今年と同じような制度があれば、だから3回目のときの活用をしていただいたときですけれども、これはもう財政当局と協議をしながら、活用を考えていきたいと考えています。それとまたそのほかの国や県等の財政支援があれば、当然積極的に活用して学校給食に充てたいということをお答弁頂いておりますので、今おっしゃっていただいた御答弁と全く一致しております。

独自の財政が今なかなか厳しいということはもう先ほどからも課長からも御答弁頂いておりますが、これは国も推奨しているメニューですので、可及的速やかに、これは臨時会の際にも同じことをお願いしたんですが、早くですね、本来だったら、前回の1月から3月までの給食費の無償化に充てた分は12月の暮れの仕事納めの際の臨時会だったと思いますが、そこで決断をして翌年の1月からの分に充てたんですが、もうちょっと3か月も待って、今回の議会にも提案されていないので、大至急検討していただいて、本来だったら卒業した中学生なども3か月は無償になったかも分かりません。

その意味ではちょっと遅きに失しているというふうにも思いますので、ぜひ積極的な検討をしてですね、積極的に活用して前に進むようお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

達総務課長。

○総務課長（達 武彦） ただいまの議員の御質問ですが、今後ですね、推奨されるメニューも含めてですね、早期に検討して、出来れば次の議会にですね、提案できたらというふうに考えておりますのでよろしくお願ひします。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） 是非、積極的な検討をお願いしたいと思います。次の質問に移らせていただきます。地産地消・オーガニック給食についてであります。

食育を進める上で、給食材料をですね、地元産で賄う地産地消、あるいは有機米や有機野菜を取り入れるオーガニック給食への関心が非常に高まっております。こうした問題についての多気町での取組の現状がどうなってるのか。これからどんな課題があるのかを質問を通じて明らかにできればと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

最初に、給食材料に地元産の米や野菜、あるいは有機米や有機野菜を取り入

れている現状について説明をお願いしたいと思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

岡井教育課長。

○教育課長（岡井 一宜） はい。それではお答えさせていただきます。米につきましては多気町産の「ぎんひめ」をJAより購入をしております。牛乳については、大内山酪農より購入をしております。その他の食材は毎月見積りを徴収し、購入しております。野菜類につきましては、町内産、県内産、国内産の順で、肉類は県内産、その他の豆や果物等は、町内産となるよう優先して取り組んでおります。特別栽培米などは、農林課と時期的なものや費用面などを調整した上で献立に反映をしております。毎月発行する給食献立表や給食だよりで、多気町産、三重県産の食材を伝えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） 意識的に、町内産とか地元産の材料を取り入れているということが御答弁頂いたと思うんですが、これらの中身について数値目標とかを、年間の数値目標とかですね、そういうことを掲げてやっておられるのかどうか、改めて伺います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

岡井教育課長。

○教育課長（岡井 一宜） はい。現在数値目標としては掲げておりませんが、先ほど申しましたように、町内産、県内産、国内産のように近隣といいますか県内の食材を確保するように努めておるところでございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） 町内産がどれぐらいの比率であるとか、県内産がどれぐらいの比率であるのか、お米については「ぎんひめ」町内産が全量だという

ことで分かりますので、その他の野菜類の数量がどれぐらいになってるのか。これについてももう少し詳しく分かったら教えてください。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

小林教育長。

○教育長（小林 真一） これおおよそでございますが、品目別っていうことで御理解願いたいんですが、町内産はおおよそ1割程度です。これは野菜の品目です。主食となる米についてはもう当然100%でございます。あと県内産についてはおおよそ40%でございます。これは品目別でございますのでカロリーベースにしますと、米が全部町内産になってきますので、7割8割になってきているんじゃないかないうことで思います。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） いわゆる有機野菜については、この今の御説明の数量の中でどれぐらいの比率になりますでしょうか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

小林教育長。

○教育長（小林 真一） はい。有機野菜につきましては申し訳ないですけど、恐らく数字にあらわれてこない程度になっておると思います。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） ありがとうございます。有機野菜や特別栽培米のことについても、御答弁の中で触れていただきましたので次の2のほうに移りたいと思います。

去年の11月の全員協議会で、学校給食への特別栽培米の提供についての説明がございました。

この特別栽培米を提供するに至った経過及び今後の計画について説明をお願いしたいと思います。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） 学校給食への特別栽培米の提供につきましては、町内において以前より進めてまいりました有機農業の推進の一環として取り組んだものでございます。

有機農業の推進は、国の有機農業の推進に関する法律において規定され、その法律第4条において、「有機農業の推進は地方公共団体の責務とされているもの」また8条において「有機農業を行おうとする者の支援のために必要な施策を講ずるものとする」とされているものでございます。

町内においても有機農業に対する取組は数多く行われておりますが、水稻栽培農家で有機栽培に興味がある方が、昨年、取組を頂きまして、有機稲作の先進地と言われる千葉県いすみ市のほうを視察も行い、また、初めて給食食材として、提供できるとなったものでございます。

今年度も引き続き有機栽培に取り組むとともに、新たに参加頂く方も出てきておられますので、町としても有機農業の推進にますます力を入れていきたいと考えております。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） 有機農業を推進するという、その法律的な根拠をもとに、自治体としても、農家を応援するということでされたという理解でよろしいですか。

ちなみに、今回提供していただいた、先進地にも御一緒した、視察に行かれたというふうに、全員協議会では伺いましたけども、収穫量というのはどれぐらいの量だったんでしょうか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

井田農林課長。

○農林課長（井田 保） お聞きしている範囲では、反当5俵ほどの出来であったというふうにお聞きしております。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） ありがとうございます。まだそれを受けて、参加する農家さんが増えるということは非常にいいことだというふうに思います。

私もいすみ市のことについて、私の学生時代の友人も市会議員をやっておる関係で、向こうの状況もちょっと聞いたりしたんですけれども、いすみ市の町長さんがオーガニック給食に対して非常に前向きな考えを持っておられるということで、全国オーガニック給食協議会というのを平成6年に立ち上げて、今38自治体の市長さんが加わっておられたり、農協や生協だとかいろんな消費者団体なんかも、この協議会の中に団体や個人で入っておられて、この運動が非常に全国的にも広がっているというふうに伺っています。

そこで、農業に対して市長さんがどんなふうにご考えておられたのかを、調査した中身があるので、ちょっと紹介したいと思います。2023年の7月の新聞赤旗で、太田ひろしいすみ市長さんにインタビューをしている記事がございまして、最初はですね、コウノトリが住むような市にしたいと。生物多様性で自然あふれる町にしたいんだということで取組をされたそうなんですけれども、なかなかうまくいなくて、それで有機農業に力を入れてやったらどうかということが、いろんな方から聞いて始めたというふうに伺っています。

そして、有機米をつくるのに取り組んだそうなんですけども、1年目はですね、もう草ぼうぼうで全然話にならなかったそうです。そして有機農業をやっておられる方を講師に招いて、米づくりの農家さんに講習をしてもらって、5人の農家さんが取り組んで、2年目は4トンほど採れたそうです。そして、4年間でその10倍、42トンが取れて、全部の学校に有機米で給食として提供できるようになったそうです。つまり、農家さんを育成するというのを物すご

く後押ししたんですね。当然、買取り価格の通常の買取りよりも、原価が大体原価計算すると1万5000円のところ、5000円ぐらい上乗せして、2万円ぐらいで買い取って、給食に充てたそうです。当初予算ではですね、有機米に626万、有機野菜に250万ほど計上したそうであります。こういう後押しがあつてできてるといふことですので、先ほど紹介していただいた取組というのはまだほんの緒に就いたところじゃないかなと思いますので、かなり町が農家さんを育成する、そして有機野菜については先ほど教育長さんもおっしゃって頂いたように、ほんの何%にも満たないぐらいのまだ提供量だと思います。これも有機野菜を買い取るということになりますと、価格もそれなりに準備しなきゃいけないものだと思いますので、かなり計画的にやっついていかないと簡単ではないというふうに思います。いすみ市長さんはそういう決断をして、今日に至つてるといふふうに伺っております。

同じように町長さん、有機農業についても、前向きな姿勢を以前から示していただいておりますが、そういった農家さんを育成するという総合的なですね、見地に立って、契約栽培で公的に買い取るというのが今大きな流れになってるんですね。これは農家さんも育成するし、特にいすみ市では若い方が就農して、移住をしてきて、就農もするというような大きな流れになってるといふことを伺っています。ですので、学校給食費の無償化の問題とあわせて、いい中身の給食をつくっていくということが、子育てや町おこしにつながっていくのは間違いないことだと思います。

この点で町長、お考えがありましたらお聞かせください。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

久保町長。

○多気町長（久保 行男） 松木議員おっしゃっていただいたように、私も町長になってから、特に有機農業関係に力入れてきたのは平成26年ぐらいかなと思います。今、有機農業プロジェクトも毎年150万かな、予算つけて応援をさせてもらっております。

学校給食の中にも、教育長言いましたように、個人の方が有機米で作られたお米を学校給食に出したりということもしております。

なぜ、私平成 25、6 年ぐらいからそんな力を入れたかと言いますと、今子どもさん、大人もそうですけども、アトピーであったり、皮膚炎であったり、そういう方々が結構多いのは、やはり化学肥料でつくった農産物を多く摂取してるんが原因かなあと、自分は医者でも科学者でもないんで。そんな思いから有機の思いがあって、特に今、ホクトさんの菌床とか、それから牛糞鶏糞を使ってというのを、取組を J A さんにも声をかけながら今進めております。

有機でつくったのはなかなか窒素分うまいこといかない部分もあるので、遅効性なんで。鶏糞なんかは結構、窒素分高いんで、逆に、肥が高過ぎて、なかなか抜けない部分もあるかと思うんですけども、その辺をお互いに研究しながら、今多気土力の会の皆さんも含めて一生懸命取り組んで頂いてますので、もうもっともっと有機農生産物、農作物ができればいいかなと思ってますので、町のほうとしても今買取りまでしてていうのはなかなか、全部それをというのは難しいかも分かりませんが、J A さんと連携しながらやっていきたいと思っております。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5 番（松木 豊年） 先ほども申し上げたように、やはり買取りをしないとですね、農家さんが安心して就農できない。特に若い方がそういうことに対して積極的になれない状況が現実にありますので、育成と同時に買取りをするってのはもう両面同時に必要だということを、改めて強調しておきたいと思えます。ぜひとも前向きによろしくお願ひしたいと思えます。次の質問に移りますけどよろしいでしょうか。

多気町の地球温暖化対策の実行計画の進捗状況についてであります。この計画についてはですね、改めて申し上げるまでもありませんが、2030 年度の温室効果ガスの排出量を、2013 年度比で、48%以上削減するというのを、目標に

しております。さらに 2050 年度にはゼロにするということでもあります。2050 年のことを今お話しするとかなり長い話ですので、取りあえず 2030 年の令和 12 年の中間点を目指して頑張る必要がある。つまり 48%の削減が当面の目標だと思います。

そして、この計画がつくられて1年が経過しましたので、進捗状況がどうなっているかについても議会の内外でも共有をして、課題や問題点も同時に共有して前に進めていく必要があると思います。

改めてこの進捗状況については、いろんなまとめ方があると思いますが、計画の概要版の 15 ページに重要業績管理指標というのが載っておりますので、それちょっとデータで準備させていただきました。ちょっとお待ちください。ちょっと画面にアップさせていただきました。この指標に沿って御説明を頂きますでしょうか。

○議長（志村 和浩） 当局の答弁を求めます。

筒井副町長。

○副町長（筒井 尚之） はい。それではですね、このご質問にさせていただく前に、私のほうからまず本計画に対します意気込みのほうをちょっと申させていただきますと思います。先ほど議員もおっしゃられましたけども、近年の世界中ではですね、地球温暖化に伴います気候変動に対する脱炭素化が非常に叫ばれております。そして御承知のとおり、令和3年4月には多気町含む6町でゼロカーボンシティ宣言からこの取組がスタートをしております。それからちょうど4年ほどたってきましたけど、その間ですね、そのための計画策定等にちょっと時間を要してまいりました。

この詳細につきましては、この後担当課長のほうからまた答弁させていただきますけども、その中でもこれから取り組む大きな事業といたしまして、御承知のとおり、昨年9月に環境省から事業採択を頂きました脱炭素先行地域事業、そして、各公共施設への脱炭素化ですね、一部はもう実施に入っておりますけれども、例えば屋根置き太陽光発電であるとか、施設内のLED化であると

か、そういったことをですね、今後どんどん進めてまいりたいと思っております。ということでこれらを施策、実行していくためにですね、現在の議会でも、提案をさせていただいておりますけど、現町民環境課を分割しまして、また新たに環境生活課、発足して4月から施策を本気で、取り組んでいく所存でございますので、一言申させていただきます。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） それでは私のほうから概要版 15 ページにあります目標につきまして御説明させていただきます。

こちらのほうには、2030年令和12年に向けた行政と町民や、企業の取組目標や、管理指標と申しますKPIを掲げてございます。

再エネ、家庭、運輸、事業活動、啓発、6町広域連携の6つの分野で指標を設定しております。

現在、令和6年度の途中であり全てのデータが出揃わない状況の部分もございます。次の新年度におきましてアンケート調査やとか、調査をする必要があるものもございますので、把握できる範囲での回答をさせていただきます。

まず最初に6年度の太陽光発電の補助件数につきましては、6年度は3件、4年度からの累計につきましては11件となっております。また公共施設への6年度の太陽光発電設備設置件数としましては0件ですが、全体では累計としては6件ございます。6年度では、設置の可能性と効果がある施設の調査を実施したところでございます。今後、この調査に基づき、設置可能な部分につきましては太陽光の設置を進めていこうと考えております。

また、6年度の12月末までの木質バイオマスの地域集材搬入量につきましては、536トン4年度からの累計は2386トンで、目標値の48%を達成できているというような状況です。

それから生ごみ処理機の購入補助件数でございますが、6年度は10件で、

4年度からは累計21件となっております。

公用車の電気自動車の導入率につきましては現在0%ということになります。

環境教育の実施回数は2回、脱炭素セミナーの実施は0回でございます。

6町連携でつくるゼロカーボン分科会につきましては2回実施しております。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） ありがとうございます。KPIに沿って、まだまだおっしゃったように、途中で集約とかアンケートを出してるところだと思いますが、これ以前私質問をさせていただいたときにも、2030年までの目標を決めているわけですので、年次目標とか年次計画っていう形でもう少し細分化して具体的に進めていかないと、計画はつくったものの、なかなか実行が進まないということがあってはならないと思います。

今おっしゃっていただいたところでもまだ、大分努力が必要なのかなというふうに感じたところもありますが、ぜひ、御努力をお願いしたいというふうに思います。

次の関連する質問させていただきます。この計画はですね、御承知のように区域施設編というのと、事務事業編という、2つの編から成っております。この計画の事務事業編の進捗状況について説明をお願いしたいと思います。

言うまでもなくこの事務事業編というのは、多気町の庁舎や多気町の職員が直接関わる言わば足元でやらなければいけないことを特別にまとめているわけです。特に町民の皆さんに啓発をするという点でも、率先垂範して実行していくことが求められているために、特別に、事務事業編という形でまとめられているんだというふうに私は思いますので、その点でどんなふうになっているかについてもお願いしたいと思います。

これも資料をもとにアップさせていただきます。これは事務事業編について整理された目標達成に向けた主な取組ということで、7点ほどまとめていただいていますので、できればこれに沿って簡単にコメント頂けたらと思います。

○議長（志村 和浩） はい、通告の途中ですが12時を回る恐れがありますが、このまま続けたいと思いますので御理解をください。

答弁をお願いします。

高山町民環境課長。

○町民環境課長（高山 幸夫） はい。事務事業につきましても把握できる項目のみ回答させていただきます。

公共施設関係でございますが、新たに供用開始をしました勢和振興事務所及び美化センターの事務所につきましては、省エネタイプの設備の導入、建物のZEB化、それから照明につきましてのLED化については対応済みとなっております。

また、電気消費量の多い本庁舎、それからBANKYO文化会館、これらのLED化に関する経費のシミュレーションにつきましての調査を6年度に行ったところでございます。

それから上下水道施設につきましては、高効率設備の導入につきましては、上下水道施設の約9割程度に導入されているということで判明しております。

それから公用車の電動化につきましては、完全なEVは導入できておりませんが、ハイブリッド車が3台入っております。

それから再生可能エネルギーの設備の導入につきましては、先ほど申し上げましたように、各公共施設の設置可能性についての調査を行い、これをもとに次年度で設置を検討していきたいと考えております。

それから、再生可能エネルギーの調達につきましては、再エネ由来の電気の調達のシミュレーション、こちらも業者のほうから料金のシミュレーションの提案書を徴収したところで調査をしたというところでございます。

以上でございます。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） この3番目のですね、照明のLED化っていうのがございます。庁舎その他について、今、調査をしているということでしたけれども、全国的にもこの問題っていうのは蛍光管のもう製造がなくなるということありますので、お尻がもう決まっているわけで、もう必ずこれは費用支出がもう不可避であります。で、全国的にもこの問題、どういうふうにするかっていうのでいろいろ知恵を出しているところもありますが、例えばイニシャルコストを下げるために、リースで運用するだとか、あるいは公用車についてもリースで調達するとか、そういうことも含めてですね、単年度にコストがかからないようにしていくような、こういう財政的な全庁挙げてのですね、総合的な検討がなしに、担当の課だけでやるなんてことはもう全くこれできない大きな事業だと思います。

その点で、最初意気込み、副町長言っていただきましたけども、そういう財政的な後押しがないとですね、財政難だなんていうことは言われますけれどもそこでもやっぱり工夫をして、どうやっていくのかについて、みんなの職員皆さんの力を結集してですね、成し遂げないと実現できない大きな課題だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（志村 和浩） 答弁を求めます。

筒井副町長。

○副町長（筒井 尚之） はい。ありがとうございます。この取組ですね、6年度からいろいろ内部でやっておりまして、特に総務省であるとか、あと環境省等々の補助金なり起債事業とかいろいろな確かに助成措置もございます。

それに加えてですね、確かにおっしゃるように、担当部署だけでは厳しいもんですから、そこを抱えている担当課ももちろん出てきてですね、情報交換もして、これは例えばこういうふうにやっていこうと。例えば年度計画を立てていこう、そういったことでも進めておりますし、これまでちょっとそれをきち

っと取りまとめる課が、町民環境課で非常に厳しかったことでもありますので、そのことも踏まえてちょっと4月から体制も立て直してやってまいりますので、その辺重々承知の上で進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（志村 和浩） 答弁が終わりました。

松木議員。

○5番（松木 豊年） 組織の再編というのもされたっていうのも大きく関係していると思いますが、いろいろ取り組んで頂いてる中身をですね、町民の皆さんや議会にもオープンによく示していただいて、やはり町一体になって、この地球温暖化対策をですね、せっかくいい計画をつくっているわけですので、実行できるように進めるべきだということを強調して、質問を終わらせていただきます。

○議長（志村 和浩） 以上で松木議員の一般質問を終わります。

○議長（志村 和浩） 以上で本日通告者全員の一般質問が終わりました。

連絡いたします。あしたは休会で、あさって7日の金曜日に各常任委員会を開催いたします。午前9時から総務産業土木常任委員会、午後1時から教育民生常任委員会を、協議会室で行います。週明け10日月曜日は協議会室にて午前9時から予算決算常任委員会を開催いたします。それぞれの委員の方はよろしく願いいたします。

それでは、本日の会議はこれにて散会といたします。お疲れさまでした。

（ 12時03分 ）